はじめに

高齢化が進む中，老年看護学は1990（平成２）年に成人看護学から独立して教育されるようになりました．日本で急速に高齢化が進んだのは1970（昭和45）年ごろからですので，20年近く遅れての教育開始となります．その後も，介護福祉士の誕生，介護保険制度の制定など，めまぐるしく変化する社会情勢の中で，「高齢者にいかに質の高いケアが提供できるか」を課題とする老年看護学は，看護教育の中でも重要な位置を占めてきました．そして，少子高齢化がさらに進み超高齢社会を迎え，ますます高齢者と社会が切っても切り離せない関係性にある現在，老年看護学の果たす役割はいっそう大きくなってきています．

そもそも老年看護学は，学生のみならず教員も自身で体験していない年齢の人を対象とした看護を教え学ばなければならない領域です．そのため老年看護教育では，高齢者自身からの学びを大切にし，高齢者と真摯に向き合うことが大事にされてきました．1995（平成７）年に日本老年看護学会が発足してから30年近くがたち，研究成果も多く示されるようになってきています．老年看護教育においては，それらによって得られたデータはもちろんのこと，学際性を重要視し，老年医学，老年心理学，老年社会学，老年歯科学，基礎老化学，建築学などの成果あるいはデータをも活用して教育が進められています．

このような，老年看護教育を取り巻く社会・学術の背景の下，本書では，以下のような特徴をもって記述することを心掛けました．

①2025年問題，2040年問題，その後の多死社会などを視野に入れながら，現代の高齢者の特徴，社会的位置付け，高齢者にとっての健康やQOLの意義などを，看護師国家試験頻出の統計データなどと共に解説する．

②これからのケア体制は，人的資源だけでは十分なケアの質を維持できないことが予測され，それらを補完するために，AIや介護ロボット，テクノロジー，高齢者をサポートする社会体制（法，制度，社会資源）の活用が重要である．看護師の役割を絡めてわかりやすく記述する．

③日本の保健・医療・福祉のあり方には地域包括ケアシステムが重要であり，地域に目を向ける視点がますます必要とされている．この視点を身に付け，切れ目のない医療・ケア体制や公的サービスだけではなく，その間をつなぐサービスの体制づくりなど多職種連携も含めた看護のあり方を学べるように，地域包括ケアシステムと，在宅・施設などの多様な生活の場における高齢者看護を詳しく解説する．

④高齢者看護の特性や活用できる看護理論，倫理，アセスメント，高齢者特有のバイタルサインや疾患について，ポイントを絞って述べる．高齢者看護に重要な目標志

向型思考や，高齢者の意思をどう尊重するかなどの倫理的な考え方を大切にしながら解説する．

⑤高齢者の健康づくりは，生活習慣病を予防し，健康寿命を延ばして元気な日々を過ごすためにも大変重要である．高齢者のヘルスプロモーション，高齢者の生活を支える看護などについて，加齢変化のポイントを踏まえて解説する．

⑥高齢者の基本的生活の支援として，コミュニケーション，食生活，住まい，社会参加，セクシュアリティについても，多くのページを割いて解説する．

今回の改訂第８版では，さらに多くの工夫を施しています．まずは，普段関わることの少ない高齢者について具体的にイメージできるよう，実際の看護場面の例を多く取り入れました．学生にとってはもちろん，教員にとっても教授する上で大いに活用して内容を膨らますことができ，学生とのディスカッションに役立つことと考えています．

そして，本書を手に取って最初に目にする巻頭には，高齢者に関わる施設・サービスと加齢による身体変化の図解を設け，文字だけではイメージしづらい知識を視覚的に理解できるよう工夫しました．

加えて，「その人らしさ」を尊重する看護やエンド・オブ・ライフ・ケアなど，高齢者看護で大切にしてほしい考え方について解説をブラッシュアップするとともに，近年の状況を踏まえ，災害時の対応や心理的支援についての解説を加えています．

ナーシング・グラフィカ「老年看護学」は２巻で構成されています．本書『老年看護学①高齢者の健康と障害』では，上述した特徴のほか，老年期の理解，高齢者看護の基本，ヘルスプロモーション，高齢者の日常生活の実際についての考え方を中心に述べました．また，それらの理解を深められるように，高齢者の疑似体験や高齢者へのインタビューといった演習に活用できる内容を盛り込んでいます．『老年看護学②高齢者看護の実践』では，高齢者の生活を支えるという視点の上に，高齢者に起こりがちな身体症状や，疾患・障害をもつ高齢者に対し，生活機能の視点からどのようなケアが実践されればよいのか，そして長期療養施設の看護，認知症高齢者の看護，高齢者特有の終末期の看護などについて，具体的に学習できるような内容にしました．演習あるいは実習の場で役立つように，実習例を示しながら解説しています．

老年看護学に関する知識や技術は，これからもさまざまな研究や実践によってより良いものが工夫され，変化していきます．老年看護学①②ともに時代に即応した教科書となり，内容の充実を図っていくために，両巻を利用された皆さまからの忌憚のないご意見，ご感想をお寄せいただけましたら幸いです．

編者を代表して　堀内ふき